

2015・実践総合センター研究会のご案内

対人援助実践学 “介在”視点を掘り下げる～パート2～

和歌山大学教育学部附属教育実践総合センター
教育臨床プロジェクト

初夏の日差しを感じる季節到来です。みなさま方にはお元気でお過ごしのことと拝察申し上げます。

本年度第2回目の研究会です。テーマは、前回に引き続き、下記講師による「対人援助実践学、“介在”視点パート2」です。前は、“介在”視点の紹介、説明をしたあと、参加者の皆さんの実践を“介在”視点から語るワークをしていただきました。今回は、これをさらに掘り下げたお話をします。前回参加していなくてもだいじょうぶです。

知人・友人・同僚とお誘い合わせのうえ、多くの皆様にご参集いただきますようお願い申し上げます。

1. 日 時 6月10日(水) 午後6時15分～8時15分
2. 場 所 教育実践総合センター 1F 授業研究開発室
3. 内 容
・講 演

「対人援助実践学

“介在”視点を掘り下げる～パート2～

衣斐哲臣 (和歌山大学教育学部 教授)

今回のポイント

対人援助に関わる実践において何ももたずに人と出会うことはありません。援助者が対象者と出会う際には、必ず何らかの理論や技法や道具など(ひっくるめて資源=リソースと言う)を介在させています。より専門的に体系化されたものは、〇〇学とか□□療法などと呼ばれています。

逆に言うと、〇〇学や□□療法そのものによって支援がなされることはありません。援助者が、それらを介在させ効果的な介在のさせ方を工夫します。このような捉え方を“介在”視点と言います。

今回は、さらにクライアントとの援助的コミュニケーションにおいて強力な武器となるアプローチの方法についてお話し、その介在のさせ方を皆さんと一緒に試してみたいと思います。

また、実践例として不登校やひきこもりの子の事例についてもご紹介します。

*参考文献

衣斐哲臣編「心理臨床を見直す“介在”療法～対人援助の新しい視点」(明石書店)

*この研究は学校現場の先生方をはじめ関心のある方はどなたでも参加できます。

申込先

和歌山大学教育学部附属教育実践総合センター
TEL 073-457-7537 / FAX 073-457-7538
近藤

